



新たに開設した看護教員専門の求人情報サイト『看護教員ネット』

社の新たな事業モデルとして徐々に顕在化している。冒頭のeラーニングによる「入学前教育講座」の実施でもすでにマンパワー不足に悩む看護系学校の一助になっているほか、2019年の夏には、新人看護教員を対象とした集合研修を全6回で実施した。

看護師養成所である看護系学校の専任教員になる場合、次のいずれにも該当する者であること、とされている。

ア 保健師、助産師または看護師

として5年以上業務に従事した者

イ 専任教員として必要な研修を修了した者または看護師の教育に関しこれと同等の学識経験を有すると認められる者。

以上に該当し、新人の看護教員になった場合において、入職後の学生指導で苦勞する教員の事例が目立つのは「イ」の後段。「看護師の教育に関しこれと同等の学識経験を有すると認められる者」に該当するケースであると

いう。

「もし実技試験も受けないで、自動車の運転免許を取得した人がいたら、その人の運転する車に乗るのは怖いですよ。それと同じ理屈で、やはり『看護師の教育に関しこれと同等の学識経験を有すると認められる者』という意義のある要件で看護教員になられた人であれば、入職後に、イの『専任教員として必要な研修』に類する学習の機会があったほうがいいのではないか。2019年の夏に始めた新人の看護教員向けの集合研修は、そうした課題解決を目的に始めました」。

リアル研修でこそ感じる手応えも

実際、十数名の参加者が集まったこの集合研修の実施により、森田氏は大きな手応えも感じた。それは「知識や技能を高めたという意欲はある。でも、研修などに参加する機会や余裕がない」という新人の看護教員側の事情で

ある。

「全6回の土曜日開催コースでしたが、参加者の中には育児の關係で『2回目の回は参加できません』という人、『関東近県での研修しか参加は難しい』など、興味はあるものの参加ができない事情のある人もいました。受講者のニーズの把握という部分では、次につながる研修だったと思います。昨年とは新型コロナウイルスの感染拡大があり、この新人看護教員向けの集合研修はお休みしましたが、コロナが落ち着いたらまた再開したいと思っています」。

コロナ禍の影響により、人材紹介やオフラインでの集合研修など、一時停止した取り組みがある一方で、強みのオンラインを活かした看護教員専門の求人情報サイト『看護教員ネット』の開設、そして看護教育現場における「オンライン授業」の導入支援など、新たな取り組みも動き出したミライブリッジ。

コロナが収束した頃には、おそらくオンとオフの強みを活かしたハイブリッドな事業展開で、社である看護基礎教育の課題解決にあたっていることだろう。